

令和元年度第1回交野市総合教育会議

- 日時** 令和元年7月19日（金）15：00～
- 場所** 交野市役所3階 第1委員会室
- 出席者** 黒田市長、北田教育長、尾崎教育長職務代理者、
亥埜教育委員、伊丹教育委員、長谷川教育委員
- 事務局** 大湾教育次長（兼 学校教育部長）
教育総務室：佐竹室長代理
学校規模適正化室：和久田室長
学校教育部：内山付部長
生涯学習推進部：竹田部長
企画財政部：良部長、南次長、（政策企画課）藤本係長、吉野
- 傍聴者** なし
- 案件** 1. 教育大綱について
2. 学校規模適正化について
3. その他

【開会】

黒田市長

ただ今より交野市総合教育会議を開催いたします。まず本日の配布資料について事務局より説明いたします。

事務局

（配布資料の説明）

【案件1：教育大綱について】

黒田市長

それでは次第に則って進めます。次第の2案件協議（1）「教育大綱について」を議題といたします。

教育大綱は、本市における教育の基本的な方針を示すものであり、平成27年に施行されました「（改正）地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、この交野市総合教育会議において協議を重ね、平成28年1月に策定したものでございます。

大綱では、その計画期間を5年と定めており、令和2年3月末をもって一区切りとなりますことから、本年度に、改定に向けての協議を進めていく必要がございます。

教育大綱に掲げる理念は「『教育百年の森』の実現～生きる力を養い多様性に富んだ人材の育成～」

であり、それを実現するための6つの基本方針から構成されております。

これらの理念や方針については、大きな方向性に変わりはなく、ますますその中身の充実と質の向上が求められるものであると認識しております。

これまでの成果や課題、教育現場における動きについて、市及び教育委員会双方で確認するとともに、大綱を改定するにあたり求められる視点について、ご意見等を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、資料に沿って担当より説明いたします。

事務局

資料「交野市教育大綱の改定について」に沿って説明
(「4. 現教育大綱の成果と課題」までを説明)

黒田市長

これまでの成果と課題を踏まえて、改定に向けた方向性を見出すため、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

北田教育長

教育大綱が作られてから今日までで一番変わったのは、小中一貫して子どもたちを育もうということであるかと思います。学力が伸びた、あるいは生徒が落ち着いたのは、小学校・中学校の教員が一緒になって子どもを育ててきたことが大きいように感じます。

教育大綱にも小中の連携ということは書いていますが、今後は小中連携を進めた「小中一貫」をもっと表に出した方がよいかと思います。また、大綱に書くかどうかは別にして、「6・3制」から「5・4制」もしくは「4・3・2制」に変える、あるいは、小中を一つの学校、つまり義務教育学校にする、といった動き等も踏まえて、小中一貫をもう一步進めて打ち出してもよいのではないかと思います。

黒田市長

今、北田教育長から、これまでの小中一貫教育の成果は得られているので、今後はよりしっかりと打ち出すべきである、また、その手法や具体的な進め方は様々に考えられるが、法律でも示されている義務教育学校も視野に入れていくべきではないか、というご意見を頂きました。

これに関連してご意見があれば頂戴したいと思います。

尾崎教育長職務代理者

市長が率先して力を入れてくださっている35人学級が成果につながっているのだと思います。

小学校全学年での35人以下学級は、周辺市町村でもなかなかない、交野が誇れる取組みです。またそのようなバックアップがあつてこそ、「交野スタンダード」や学力向上施策、子どもたちの問題行動への対応において、非常に効果を上げている小学校が出ているのだと思います。

そういった点で、感謝を申し上げたいですし、引き続き学校教育のバックアップをお願いしたいと思っております。

大綱の内容について申し上げますと、基本方針の文言と内容が若干交錯するようなところが見受けられます。もちろん関連性がありますし重なってもよいと思いますが、例えば、小学校の35人以下学級が、基本方針1の「誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出」にふさわしいのか。基本方針3の「質の高い教育環境の整備」に入れた方が、より方針が明確になり、実際の施策にも活かせるのではないかと。こういった点からも、今般改定される際には、基本方針と中身の整合性をとる、あるいは精査するという事を考えていただければありがたいと思います。

黒田市長

ありがとうございます。

尾崎教育長職務代理者からは、少人数学級の成果は間違いなく、よって今後もしっかりと続けていくという考えを教育大綱で打ち出すべきではないか、また、基本方針と、それに関連する具体的な事業については、整理した方が、よりわかりやすい教育大綱になるのではないかとのご意見を頂きました。

一貫教育についてはいかがでしょうか。

尾崎教育長職務代理者

小中一貫教育は、学校現場で様々な取り組みが進められているところですので、それをバックアップするという意味でも、先ほど教育長がおっしゃったように、単なる施設としての学校の問題だけではなく、教育課程や学びの質の問題として、一步踏み込んだような形で、小中一貫教育のあり方を選択肢の一つとして市民にお示しする、ということは考えていってよいのではないかと思います。

その点では、資料（交野市教育大綱 成果と課題）の冒頭ページに記載されている「学校教育が交野のまちの魅力の一つになっている」という文言にふさわしいように、具体的な内容を強く打ち出していただけると大変ありがたいと思っております。

黒田市長

ありがとうございます。

他の方のご意見もお聞きしたいと思います。伊丹委員いかがでしょうか。

伊丹教育委員

一中校区において、施設一体型の小中一貫校を建てる方向で進んでいますが、小中一貫教育がどんなものかということが保護者に浸透していないということも聞いています。

ですので、市として、小中一貫教育は子どもにとって良いことであるから進める、小中一貫教育で子ども達の環境がこのように整う、という具体がわかる形で方針を掲げていただけると、保護者としても安心できるし、小中一貫教育への理解が浸透すると思いますので、ご考慮いただければと思います。

それから、英語教育については、交野ではALTの方を沢山入れて非常に先進的な教育をしているということですし、プログラミングというのも柱の一つだと聞いております。それらについては、今後より充実させてほしいと思っております。

一方、今回の課題にも挙がっておりました「ICT活用など新たな教育スタイルへの対応」につ

いては、タブレットやスマホは子ども達にとって身近なものですが、危険性もあります。学校で使い方を教えることは、子ども達が今後これらの機器を活用する上で意味があると思いますし、これらを活用してよりわかりやすい授業を行うことによって子ども達の理解が深まると思いますので、費用的にかなり負担があるかもしれませんが、ご配慮いただきたいと思います。

黒田市長

ありがとうございます。

一貫教育について、まだまだ浸透していない部分があるので、しっかり市の考えを示すことによって保護者の皆様にも安心していただけるのではないかと、また、今後はICTを活用した教育が大事になってくるのではないかとのご指摘をいただきました。

続いて、亥埜教育委員いかがでしょうか。

亥埜教育委員

安心・安全について気にかかることがあります。

最近、通学中の交通事故が増えています。歩道が必要だとかそういった話になるのですが、要は運転する側の問題で、例えば私が朝にあいさつで通学路に立っている時も、ものすごいスピードで走る車両を見かけます。ですので、警察と連携して、朝の登校時間に警察官に立ってもらうなど、運転手の意識を変える取組みを進めていただきたい。運転手の意識を変えることが、子ども達の安心・安全を守るために一番重要ではないかと思えます。

黒田市長

登下校時に限らず、まずは子ども達の安全を確保するためには、交通ルール・交通マナーの遵守を大人が示すこと、そのために警察との連携を密にする必要があるというお話をいただきました。

教育大綱の中では、「質の高い教育環境の整備」というところに、登下校見守りシステム導入等を入れておりますが、私は、現在の6つの基本方針の括りで物事を考えるという必要はないと考えています。例えば、安心・安全という項目を一つの方針として出すということも、わかりやすさという面で大事でしょうし、子どもが元気に育て初めて教育の成果が出るわけですから、教育内容に直接関連することではありませんが、大綱の内容に含めて一定の示唆をしていくことは問題ないと思います。

これまで他の方からご意見のあった、小中一貫教育や35人以下学級、あるいはICTを活用した教育等、教育内容について、特に感じていらっしゃることはありますか。

亥埜教育委員

やはりICTだと思います。これからの時代、どうしても不可欠になってくるので、プログラミングやAI等に対応できる子どもに育てていかなければ、職に就けなかったり、それが引きこもり等の問題へつながってしまうので、ICTを活用できる環境を整えていただければと思います。

黒田市長

ありがとうございます。長谷川教育委員いかがでしょうか。

長谷川教育委員

ICTを利用した教育に対する考えは皆さんと同じです。

子どもたちのスマホの保有年齢もどんどん下がってきており、私たちが思うよりもインターネットに触れていたり、あるいは子ども達の方が詳しくなったりします。それが間違った方向に使われる傾向にあるのが心配なところなので、学校で、ひいては交野市全体できちんとした教育ができればと思っております。

また、私は「誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出」、この一言に尽きると思います。ただ、この「希望と安心」という考えが、紙に書かれているだけではなくて、各家庭に届くことが一番大事だと思っています。例えば、学校給食におけるアレルギー対応などは、私自身、身近にアレルギーをもっている子がいたので、この数年で大きく変わったことは本当に喜ばしく感じ、感謝しています。そういう身近に見える部分で、市としての姿勢の変化や大きな方向性が見えたらよいと思います。

例えば放課後児童の居場所について、学校図書室の開放やフリースペース等、色々行ってはいるのですが、実際に子ども達から聞くとあまり利用していなかったりします。二極化の傾向にあると思います。親御さんに聞くと、一人だと心配なので友達と図書館に行ってもらっている、フリースペースに寄ってもらっているという人もいますが、習いごと潰けにして、常に大人の目に触れるようにしているという人もいます。それも安心を得るための一つの方法だと思いますが、保護者の立場としては、市としても、放課後児童会の整備も含め、児童の居場所づくりにも力を入れている、地域の皆さんも関わって、誰もが安心して集えるよう支援しているという姿勢が、見える形でもっと前面に押し出されればよいと思います。

黒田市長

一番大事なものは、希望と安心をもって子どもたちが育つ環境で、そのために取り組んでいることをもっと多くの人に知ってもらい、(子ども達、あるいは保護者の方に、)安心して希望をもって交野で暮らすことができるということを感じていただけるような、しっかりとした大綱を示していくべきではないか、といったご意見でございました。

ここまで、一通りお聞きしましたが、本日は、これまでの成果・課題について共有し、その上で、議論を積み重ねながらしっかりとした大綱を掲げていくためのファーストステップですので、皆さんの様々な自由な意見を伺ったということに留めておきたいと思えます。

私の方から申し上げますと、確かにICTが重要になることは間違いありませんが、教育大綱には「情(こころ)を育み、確かな学びの実感」とあり、その前段に「情(こころ)を育み」とあります。様々な情報通信技術の発達に伴い、それらを使いこなす能力は当然大事になってきますが、技術・機械に頼るのみでよいのか、あるいはそれらをしっかりコントロールするために人間として大事にすべきところがあるのではないかと、ということ視野に入れて、前回の策定時に「情(こころ)を育み」といった言葉を入れたと記憶しております。

特に、今後AIが発達していくと、今人間が担っている仕事の大部分がAIにとって代わられる

という学説があります。では逆にAIに担えないものは何かということころは、しっかりとこれからの教育の中で示し、それを担う人材を義務教育課程あるいは就学前の中で育てていくということも大事だと思っています。

特に理念に掲げている「教育百年の森」、つまり「まずは個々の生きる力を養う。森にたとえて言うならば、森にはいろんな生き物がいて、それぞれの生き物が、それぞれ生きる力を育む。ただし、その多様性をしっかりと尊重し合う。そういった人材を育成する。」ということに鑑みれば、人間的な部分もしっかりと育む必要があります。ICTは生きていく上で大事な技術ではあるが命ではない。そういった部分をこういった形でこれからの教育大綱にどう活かしていけるか、というのが私自身の感想です。

北田教育長

子どもたちのこころを育む、あるいは安全を確保するためには、地域の方と協力することも大事だと思います。その意味では、小学校・中学校が一つになってやろうというときに、地域の方にも学校に協力していただく、また学校も地域にもっと情報を開きながら、地域と一緒に子どもたちを育てていく、という取組みが大切だと思います。地域の方の愛情で、子どものこころが育まれると思います。

例えば、急には無理だが、コミュニティスクールという形で地域の方に入ってもらったりして、地域の方の協力を得ながら、地域と一緒に子どもを育てていくという考えが、これからの教育に必要なと思いますので、教育大綱にもそういった考えが入ってよいと思います。

最近視察した学校では、プールの授業時に地域の方が安全監視をしていました。普通の学校は他の教員が入りますが、(この学校では)地域の方が入ってくれるので、他の教員は違う業務ができます。また、子ども達も地域の方に見守ってもらっている安心感がありますし、(この経験が)自分たちも地域の方への恩返しをという気持ちを育むでしょう。このように、地域の方が一緒に子ども達を育むといった組織づくり・体制づくりも教育の中で必要になってくると感じています。

黒田市長

亥埜委員いかがでしょうか。先ほど、とにかく安全・安心が大事で、そのために警察機関も含め地域全体で子どもの命を守るというご意見を頂きましたが、北田教育長の言われた、学校運営に地域の力を活用すること、また地域の人との触れ合いがあることは、子ども達にとって非常に有効だという考えについて、地域で学校支援につながる色々な活動をしてくださっている亥埜委員としては、どう思われますか。

亥埜教育委員

私達も地域で「親地の会」等で活動していますけれども、こういう活動はなかなか芽が出るのが見えにくいというところがあります。でも、地域の人が活動している姿を見た子ども達が、その時は何も思わなくても、中学校を卒業して高校生や20歳くらいになってからその人達と会った時に、「あの時のおっちゃんや、あの時ああいうことしてくれてんな」と思ってくれると思います。

つまり、地域の人が活動している姿を見ているかどうかで、大人になった時の考え方が変わってくると思います。これは私自身が活動を10年間続けてきて、最近25～6歳になった子ども達と

話をして感じたことです。そういう活動をしている人を見て、「自分も何かしてみようかな」、「土曜日学習にまた行こうかな」、「あいさつ活動の手伝いもしようかな」と思う子どもが出てきています。活動を続けていてよかったと最近感じています。

黒田市長

「地域の先輩・後輩」というか、世代間の支え合い、あるいは継承ということを含めて、地域で支え合う環境、地域が学校現場と何らかの形で触れあっている環境というのは、その中で育った子ども達が、将来また次の世代につなげていくという点で大事なのではないかというご意見ですね。

長谷川委員いかがでしょうか。長谷川委員も様々な場面で活動しておられますが、これまでのご経験から、地域と学校の関わりという点について何かご意見はありますか。

長谷川教育委員

地域には沢山の先輩方がいらっしゃって、様々な知識や技を持った方が沢山いらっしゃいます。それこそ放課後児童会において、「あの児童会では○曜日に△△さんがこれを教えてくれるらしい」とか、「あの児童会では□□さんがこれをやっているらしい」ということがあれば、児童会のイメージそのものが変わると思います。そういう意味では、地域の方々にもっと広くお声掛けして、もっと色々な場面で関わってもらってもいいのではないかと思います。

黒田市長

ありがとうございます。

尾崎職務代理者いかがでしょうか。学校運営に地域の様々な力を活用することが、子どもにとっても色々な効果を将来的に生み出すということ、その時の学校運営を支援してもらうだけでなく、教育効果を目指して（地域の方に関わってもらう）ということについて、いかがお考えですか。

尾崎教育長職務代理者

安全・安心な学校というのは何にも勝るものだと思います。そのことと関連させて、今のコミュニティスクールについても考えてみたいと思います。

冒頭に申し上げたカテゴリーをどうするかという問題については、冒頭に「誰もが希望と安心をもって学べる環境の創出」という方針が来ているのは、子どもたちの命に関わる大事なことであろうということです。35人以下学級は「質の高い教育環境の整備」に移して、「質の高い教育環境の整備」に入っている通学路や学校の安全、それから、いじめ・虐待の問題、これらを一つにまとめて、子ども達の命に関わることを第一に考えるという姿勢を強く打ち出していきたい。

特にいじめの問題に関しては、子どもの命あるいはこころを育てるとするのは教育の根本なので、そこに力を尽くしていくべきだと思います。大津市の取組みなどを見ても、教育委員会だけでは十分に対応できないこともありますので、市長のバックアップを頂きたい。安全・安心に関わることは、学校や教育委員会でも行っているのですが、現段階で想定していないような新たな事態も生まれているので、是非市長のバックアップを頂きたい。

またその際に、地域と連携する、地域の助けを受けるということがポイントになってきます。予

算も限られていますし、登下校の危険、あるいは不審者に（行政単独で）どこまで対応できるのか。もちろん機械の力を借りることも重要ですが、同時に、人的な力を活用しないと万全とは言えないだろうと思います。

そこで、コミュニティスクールのように、地域の方に、単にお願いしたことをやっていただくのではなく、学校経営全体に関わっていただき、主体的に「校長先生こうしませんかと」と提案していただけるのが、一番理想的な形であろうと思います。また、地域人材として学生ボランティアを活用することも、若い人を地域で育てるという意味も含めて非常に有効ではないかと考えています。

私がこの大綱の中で一番お願いしたいことは「安全・安心」です。そのためには地域との連携が非常に大事であるということ、そして、いざという時には市がバックアップするという方を方針の中でお示しいただければ大変ありがたいと思います。

黒田市長

ありがとうございます。

学校運営や学校経営、教育効果のためだけではなく、安全・安心のためにも地域の力は不可欠である、学校現場だけで子どもたちの命を守ることはなかなか難しい時代なので、地域の力を借りるという観点からも、コミュニティスクールという考え方は有効ではないか、というご意見でした。

伊丹委員はいかがでしょう。コミュニティスクールは、見方を変えれば、子ども達の様々な課題を解決するために、外部人材を登用する、その一環として地域の力を借りるのだ、という取組みだとも言えると思います。いじめや虐待といった人権・生命に関わる問題がある中、学校の先生だけでは対応しきれない部分を、スクールソーシャルワーカーなどの専門家に補ってもらって、子ども達の見守り体制の充実を図っていますが、地域の力、あるいは外部人材の登用によって、こういった部分を補完していくべきではないか、というようなご意見はありませんか。

伊丹教育委員

意見ではないかもしれませんが、現行の教育大綱では、「情（こころ）を育み、確かな学びの実感」の中で「『生きる力』の育成が大切」とされていますが、全くそのとおりだと思っております。

ICTの発達という話もありましたが、これからの時代を生きていくにあたっては言われたことができるだけでは不十分で、言われたこと以外のことを自分で考えられないと、あるいは精神的に強くないと生きていけないということもあると思います。学校にいる間は先生等に守られているけれども、いざ社会に出てしまうと誰も守ってくれないので、子ども達には生きていけるだけの精神的・肉体的な力を学校で身につけてほしいと思っています。そのために具体的に何をすべきか、ということについては、わからない部分もありますが、スクールソーシャルワーカーや外部人材の方、あるいは地域の方に、子どもたちのこころを育んでもらい、たくましく生きていく力を身につけてくれることを望んでいます。

黒田市長

こころを育み、精神的に強くたくましい子どもに育ててほしい、「生きる力」ということだけではなく「自立」に向けた学びをしっかりと交野で実践してほしい、そのために教育として何ができる

のかというところも課題ではないか、というご意見でした。ありがとうございます。

黒田市長

今日は、これまでの成果と課題を共有して、次期大綱について考えるスタートの場として、皆様からご意見を頂きました。議論は尽きませんが、今日はここまでといたします。

最後に今後のスケジュールについて、事務局から説明してください。

事務局

資料「交野市教育大綱の改定について」に沿って説明
（「5. 今後のスケジュール（案）」を説明）

黒田市長

このスケジュールで進めていきたいので、よろしく願いいたします。
この案件については以上とします。

【案件2：学校規模適正化について】

続いて、案件協議（2）「学校規模適正化について」を議題といたします。

これまでの会議で随時、状況をご報告しておりますが、本日は、これまでの経過や今後の教育委員会としての方向性等について教育委員会事務局よりご報告し、市及び教育委員会双方で今後の方向性やスケジュールの共有を図ってまいりたいと考えております。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料「学校規模の適正化について」に沿って説明

黒田市長

内容は、既に教育委員会事務局から聞かれているところも多いかと思いますが、本日の説明を踏まえてご意見等がございましたらお願いします。

なお、児童生徒の数の増加が予想されるというのは全国的にも珍しく、嬉しい状況です。だからこそ、計画的に受け入れ体制を整えていかなければならないと思っています。

北田教育長

市長が言われたように、子どもの数が増えていくのは、まちの活気にもつながるし、非常に良いことだと思います。このような状況において、教育の魅力を高めることが大事だと思いますが、今後ますます魅力ある学校をつくるために、例えば新校舎周辺の歩道整備等も含めて、市長部局と連携して進めていきたい。教育の魅力・学校の魅力は、まちの魅力につながるといいますので、市全

体で進めていければと思っています。

黒田市長

他にご意見はありませんか。

ご意見がなければ、この案件については以上とします。

それでは、続いて案件協議（３）「その他」ですが、何かありますか。

私からは、今春は子どもが交通事故で命を奪われるということがありました。案件１において、重視していかなければならないのは、登下校の安全・安心、子どもの命なのではないか、というご意見もありましたが、我々市長部局としても、教育委員会と連携しながら、子ども達の登下校時の交通安全・犯罪抑止に取り組んでいきたいと思えます。

他にないようでしたら、これもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。みなさま、本日は誠にありがとうございました。

以上

本議事録は、発言の要点をまとめているものであり、発言全てを記載したものではありませんので、ご了承下さい。